



高商OBご遺族が母校を訪問されました

令和6年6月5日
県立高田商業高校同窓会

先週5月23日(木)午前、本校OBの陶芸家志賀重雄氏(昭和20年卒)のご遺族が高田商業高校を訪問されました。

ご子息の志賀淳さんが、現在豪州在住の故志賀重雄氏の奥様、Alexandraさんの来日に合わせ、奥様のご希望による初めての上越市訪問を計画。同窓会が淳さんよりその旨の協力要請を頂きました。

同窓会担当者が高田商高(中田原校舎)にご案内し、学校長より説明・案内を頂きました。

校長室には志賀重雄氏が昭和39年に寄贈した作品が展示されており、学校長より説明を頂きました。(写真①)

また、学校長の案内で校舎内を見学し、商業科特別教室棟ではパソコン実習室での授業を参観しました。(写真②)



その後、市内南本町3の創業40年の老舗飴菓子店「高橋孫左衛門商店」を訪問しました。

同商店先代当主が、生前の志賀重雄氏の作家活動について、作品愛好家として陰に陽に後援されたとのこ





とで、お話を伺うべく訪問しました。

現当主奥様から、先代と志賀重雄氏との関りについて、様々なお話を伺うことが出来ました。

お店の銘菓を賞味しながら、同店の歴史と店内の古き良き日本の伝統的な佇まいを、シドニー在住のお母様が興味深く見入っておられました。志賀重雄氏の陶芸作品と相通ずるものを感じられた様子でした。

<高橋孫左衛門商店>

創業寛永元(1624)年、江戸時代より400年続く飴一筋のお店。『東海道中膝栗毛』の著者としても名高い、戯作家・十返舎一九来訪。また、夏目漱石の『坊ちゃん』に登場する笹飴も自慢の一品。

旧校舎(現高田南城高校)は、高田商工時代に志賀重雄氏が5年間学ばれた校舎で、当時の面影は殆どなく桜の巨木が残っていることをお伝えしました。

最後に志賀重雄氏が高田市(当時)に寄贈した作品を管理している、小林古径記念美術館を訪問しました。

当同窓会HPに志賀氏紹介記事を掲載するにあたり、同館より多大なるご協力を頂きました。(写真右は、小林古径邸玄関に置かれている寄贈作品と奥様)

